

2022年5月29日(日)／説教者：國分美生

説教：「平和は足元から」

聖書：創世記4:1～16

カインとアベルの兄弟の物語は読む者に大きなショックを与える印象的な物語ですが、カインにとっては奇妙で理解しがたい体験の中で、神がカインにどのように関係したかという点に目を向けると、私たちはカインを自分自身のこととして読めますし、またカインは全人類の姿であると読むこともできます。

神との信頼関係を自ら壊してしまった、アダムとエバは、エデンの園の外に追い出されますが、主によって息子たちを得ます。兄カインは土を耕す者、弟アベルは羊を飼う者。神はアベルとその捧げものだけに目を止めました。聖書からわかる興味深い点は、カインが長子であることと、カインとアベル二人の名前の由来であり、これが神の意図と結びついていたのではないかと想像できます。

長子カインには、弟のアベルと比べて格段に特権がありました。また、アベルの名は「空気」・「無」という意味を表します。神は、取るに足らない者、とわきに追いやられていたアベルに目を向け、顧みられました。弱い立場にあるものを憐れむ神のまなざしがここにありません。ですが怒りと悔しさのあまり、カインは弟アベルを殺してしまいます。それは単に他者の命を奪ったというだけでなく、神との関係を自ら断ち切り、神が与えた他者との関係を断ち切るという罪でした。

驚くべきことに神は、カインに厳しい裁きを与える一方で、誰もカインを撃つことがないようにしるしをつけられます。カインを切り捨てることはありません。創世記は神と人間のパートナーシップの物語…私たちは目の前にいる他者との関係を大切にすることで、神との関係を大切にし、そして神の望んでおられる平和の内に生きるようにされている者なのです。

イエス・キリストは、とりわけ、病気であったり社会の底辺に置き去りにされた人々と積極的に交わりました。他者との関係を失ってしまった人々が、その関係を修復することが出来た、そのことがイエスの癒しの奇跡の内容でした。

平和は足元から始まり、やがて大きなうねりとなって、神の平和がこの世界を覆いつくしていきます。

新しい一週間、私たちは、神が出会わせてくださった隣人との間に、神の国のかけらを見出すことが出来ますように。(國分美生)